

---

2023年度第2四半期決算 及び  
2023年度業績見通し

---

説明資料

帝人株式会社

2023年11月6日

# 今回公表のポイント

## ■2Q実績（前四半期対比）

- アラミド、繊維・製品の販売増等により、営業利益は15億円増（42億円→57億円）

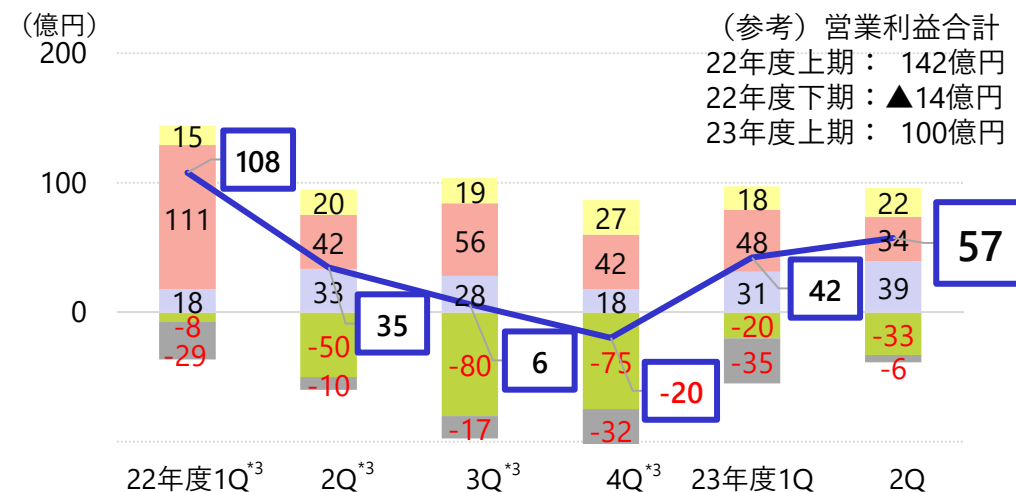
## ■上期実績（前年同期対比）

- 営業利益は43億円減（142億円→100億円）
  - 医薬品「フェブリク」の後発品参入等により減益
  - 繊維・製品の販売好調や複合成形材料の販売価格改定等の収益性改善効果等により増益

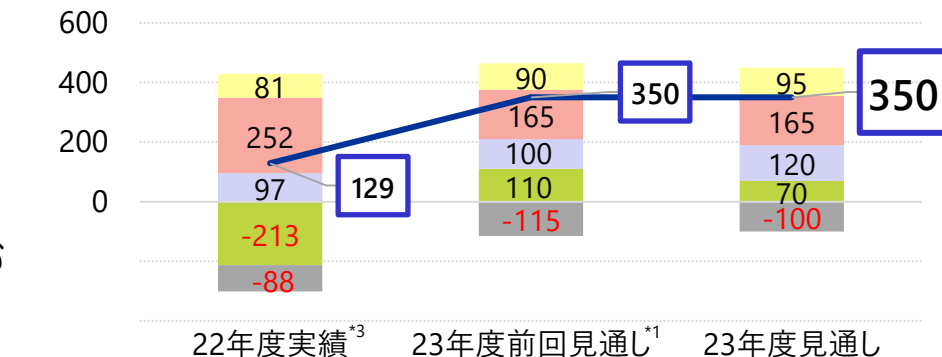
## ■通期業績見通し（前年度対比、前回見通し\*1対比）

- 課題3事業（アラミド、複合成形材料、ヘルスケア）について、2月公表の「収益性改善に向けた改革」を実行
- 売上高は1兆300億円、営業利益は350億円の見通し
- 前年度対比では、売上高は1.1%増、営業利益は2.7倍  
ヘルスケアは「フェブリク」の年間通しての後発品参入の影響を見込むも、上記マテリアルの改善施策の発現と前年度の一時的な生産トラブル影響の解消などにより増益を見込む
- 前回見通し対比では、売上高は1.9%減、営業利益は据え置き  
マテリアルは米国UAW\*2のストライキや一部用途での需要軟化影響などにより減益を見込むも、繊維・製品等の堅調な販売による増益見込み等により、全体では見通しを据え置き
- 当期利益は130億円の見込み（前年度：▲177億円、前回見通し：130億円）
- 年間配当見通しは30円/株（前年度：40円/株、前回見通し：30円/株）

営業利益推移（四半期）  
折れ線グラフは合計を表示



営業利益推移  
折れ線グラフは合計を表示



\*1 2023年8月7日公表

\*2 全米自動車労働組合

\*3 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

# 当社の主要ターゲット市場の前提（2023年度）

需要は全般的に堅調の見通し

事業		市場	主な地域	上期実績	下期見通し
マテリアル	アラミド	自動車	欧州、米国	• 欧州での高級車/EV向けタイヤ需要が好調	• タイヤ用途を中心に引き続き需要は堅調に推移
		産業資材	欧州、米国 中国	• 光ファイバー用途で需要が軟化も全般的には堅調	• 米国及びアジア地域で一部在庫調整の影響があるも、引き続き需要は堅調に推移
		防弾・防護	欧州、米国	• 防弾・防護とも需要は堅調	• 引き続き需要は堅調に推移
	樹脂	電気電子	中国、アジア 欧州、米国	• 中国の景気回復遅延、欧州の経済減速影響などにより、低調な需要継続	• 低調な需要が継続
		自動車	日本、中国 アジア	• 半導体などの不足の影響はほぼ解消し、需要回復	• 引き続き需要は堅調に推移
	炭素繊維	航空機	欧州、米国	• 利用者数回復で旅客機需要は好調（但し、航空機メーカーの部品調達制約でビルトレートの伸び停滞）	• 引き続き需要は堅調に推移
複合成形	自動車	米国	• 米国の自動車需要は堅調（但し、一部車種で需要減）もUAWストライキによる生産制約の影響あり	• 米国の自動車需要は堅調も、UAWストライキによる生産制約の影響あり	
繊維・製品	衣料繊維	欧州、米国 中国、日本	• 米・中は底堅く推移するも、欧州は需要低調 • 国内消費は好調	• 欧米・中国は景気減速懸念により市況は弱含み • 国内は引き続き好調に推移	
	産業資材	日本、中国	• 自動車関連はサプライチェーンでの在庫調整が継続	• 在庫調整局面は徐々に解消の見通し	

## 当社の主要ターゲット市場の前提（2023年度）

事業	市場	主な地域	上期実績	下期見通し
ヘルスケア	医薬品	日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 痛風・高尿酸血症患者数は拡大基調だが、後発品参入により市場規模（薬価売上）は縮小</li> <li>• 糖尿病薬市場は微増も、厳しい競争環境が継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リアル面談活動は増加も病院での訪問規制は継続が見込まれ、リアルとe-プロモーションのハイブリッド活動を展開する</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>• COVID-19影響により病院では訪問規制が継続し、e-プロモーション強化が継続</li> </ul>	
	在宅医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 在宅酸素療法（HOT）はCOVID-19によるHOT導入は減少するも市場は横ばい</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>• 在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続、検査数も緩やかに回復</li> </ul>	
IT	電子コミック	日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子コミックの需要は堅調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 引き続き堅調に推移</li> </ul>

1.	2023年度第2四半期決算	P. 5
2.	2023年度業績見通し	P.14
3.	収益性改善に向けた改革の進捗状況	P.22
4.	参考資料	P.27

#### 見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。当資料に含まれている医薬品、医療機器、再生医療等製品（開発中のものも含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的とするものではありません。

本資料は2023年11月6日15時に公表した弊社決算に基づくものです。

# 1. 2023年度第2四半期決算

## ◆ 実績ハイライト [前年同期対比]

【売上高】複合成形材料の販売価格改定等の収益性改善効果の発現やITの販売好調も、樹脂における需要低迷や医薬品「フェブリク」の後発品参入影響により、全体では0.8%の減収

【営業利益】繊維・製品の販売好調や複合成形材料の販売価格改定等の収益性改善効果の発現も、医薬品「フェブリク」の後発品参入影響により全体では30.1%の減益

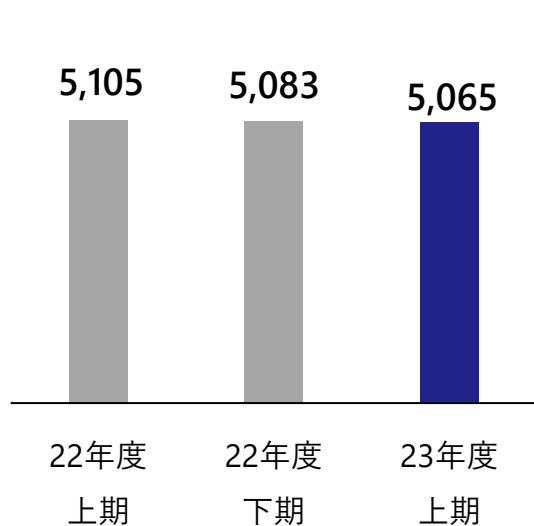
【四半期純利益】複合成形材料の中国事業撤退に係る損失計上や税効果が認識できない海外子会社の赤字幅拡大等に伴う税負担率の上昇等により、▲5億円の損失

(単位：億円)

## 売上高

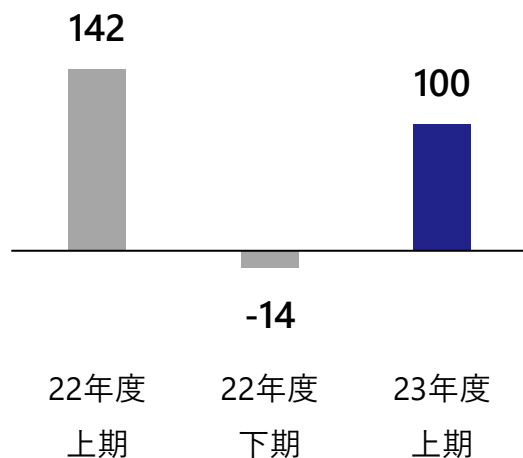
22年度上期対比  
22年度下期対比

-0.8%  
-0.4%

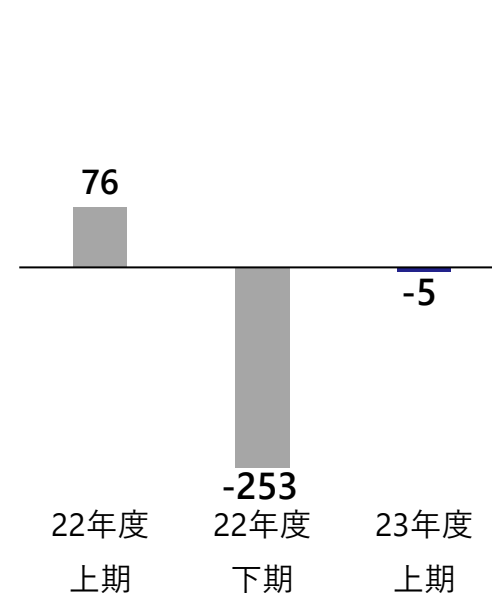


## 営業利益

-30.1%  
黒字化

親会社株主に帰属する  
四半期純利益

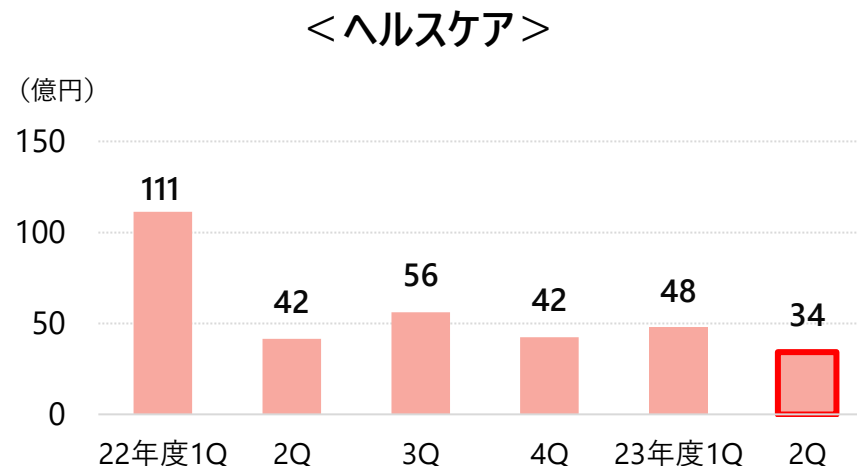
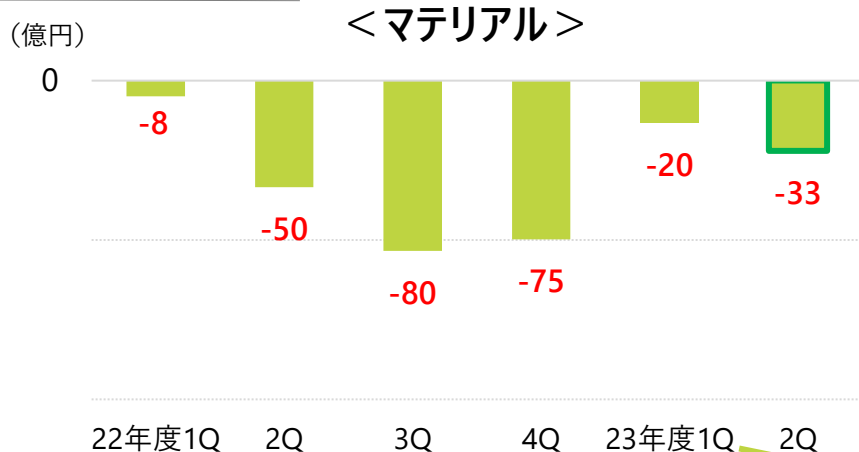
損失へ  
損失幅縮小



◆ 実績ハイライト [前四半期対比]

セグメント	営業利益の方向・要因 (2023年1Q→2023年2Q)	
全体	➡	・アラミド、繊維・製品の販売増等により増益
-マテリアル	➡	・複合成形材料の一部車種の需要減及び樹脂の低調 ・アラミドの工場火災影響からの復旧による販売増
-繊維・製品	➡	・衣料繊維が国内外で販売好調、産業資材も販売堅調
-ヘルスケア	➡	・薬価改定後の医薬品販売増からの反動
-IT	➡	・電子コミックサービス販売好調、ITサービスでの季節要因影響

営業利益推移 (四半期)\*1



(-) アラミド 天然ガス価格高騰  
(-) 複合 設備故障影響

(-) アラミド 火災影響(12月発生)  
(-) 複合 OEM部品不足による販売量減・設備故障影響継続

(+) アラミド 天然ガス価格低下、火災影響復旧  
(+) 複合 収益性改善効果発現

(-) 6月の「フェブリク」後発品参入影響

(+) ライセンス対価収入  
(-) 医薬品買い控え、経費集中

(+) 医薬品買い控え、経費集中からの反動

\*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示



## ◆ 実績サマリー [前年同期対比]

	(億円)			
	22年度 上期	23年度 上期	差異	増減率
売上高	5,105	5,065	-39	-0.8%
営業利益	142	100	-43	-30.1%
営業外損益	58	1	-57	-98.7%
経常利益	200	100	-100	-49.8%
特別損益	-2	-13	-11	-
税金等調整前 四半期純利益	198	87	-110	-55.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	76	-5	-81	-
ROE <sup>*1</sup>	3.4%	-0.2%	-3.6%	-
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	3.4%	2.3%	-1.1%	-
EBITDA <sup>*3</sup>	515	491	-24	-4.6%

\*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本\*」にて算出  
(\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*1、\*2は年換算後の数値

	(億円)			
	22年度 上期	23年度 上期	差異	増減率
設備投資 <sup>*4</sup>	264	276	+12	+4.6%
減価償却費 <sup>*5</sup>	372	391	+19	+5.1%
研究開発費	156	152	-4	-2.4%

中間配当は予定通りの1株当たり15円で決定

## ◇為替・市況燃料価格

		22年度 上期	23年度 上期
PL換算レート	円/米ドル	134	141
	円/ユーロ	139	153
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		102	81
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)		156	34

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産の取得を含む (M&Aは含まず)

\*5 のれん償却含む

## ◆ マテリアルセグメント [前年同期対比]

(億円)

	22年度 上期*	23年度 上期	差異	増減率
売上高	2,226	2,155	-70	-3.2%
EBITDA	121	138	+17	+14.2%
減価償却費	179	191	+13	+7.1%
営業利益	-58	-53	+4	-
営業利益ROIC	-3%	-3%	+1%	-

&lt; 営業利益増減内訳 &gt; ※2023年度よりEBITDAから営業利益に変更 (億円)

22年度 上期	数量差	売値・ 構成差	原燃料 単価差	為替 影響	その他	23年度 上期
------------	-----	------------	------------	----------	-----	------------

樹脂、アラミド、  
複合成形材料、炭素繊維

-58

▲115

+20

+155

±0

▲55

-53

工場固定費増、  
在庫高影響他アラミド、樹脂、炭素繊維、  
複合成形材料(+) アラミド、複合成形材料、炭素繊維  
(-) 樹脂

## ■ アラミド繊維 (減収・増益)

- 販売価格改定及び天然ガス価格低下が収益に貢献
- 22年12月に発生した原料工場火災の影響が上期前半に残り、かつ一部生産設備の特殊補修部品の調達に時間を要していることで販売量が減少

## ■ 樹脂 (減収・減益)

- 中国の景気回復遅延や欧州での経済減速影響などにより低調な需要が継続し、販売量が減少
- 原燃料価格下落で販売価格が低下するも、スプレッドは概ね維持

## ■ 炭素繊維 (減収・微減益)

- 航空機向け用途は旅客需要の回復が継続する中、航空機メーカーでの部品調達の制約の影響により販売増に至らず
- レクリエーション用途等はサプライチェーンでの在庫調整等により販売量が減少
- 原燃料価格低下が利益に貢献

## ■ 複合成形材料 (増収・増益)

- 前年度の原材料価格高騰に対する販売価格改定やコスト削減など、北米での収益性改善効果が発現
- 北米での自動車販売台数は堅調に推移したものの、一部プログラムでの需要減を受け、販売量は減少

\*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

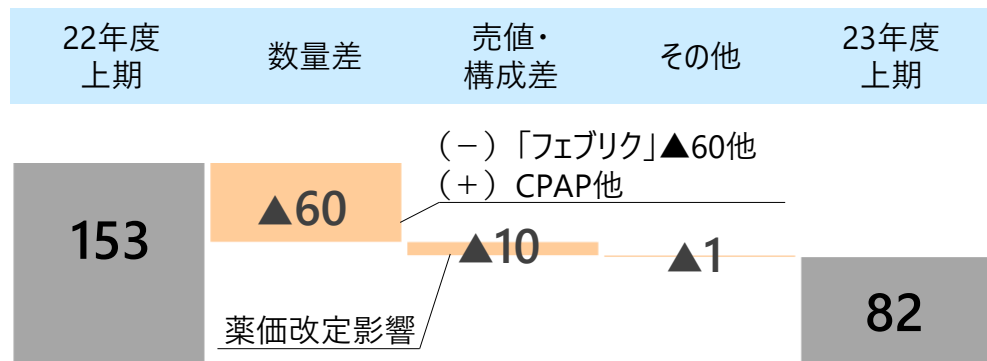
## ◆ 繊維・製品セグメント [前年同期対比]

	(億円)			
	22年度上期	23年度上期	差異	増減率
売上高	1,585	1,585	+0	+0.0%
EBITDA	86	108	+22	+25.8%
減価償却費	35	37	+3	+7.9%
営業利益	51	70	+19	+38.0%
営業利益ROIC	7%	10%	+2%	-

## ◆ ヘルスケアセグメント [前年同期対比]

	(億円)			
	22年度上期 <sup>*1</sup>	23年度上期	差異	増減率
売上高	779	707	-72	-9.3%
EBITDA	283	210	-72	-25.6%
減価償却費	130	128	-1	-1.0%
営業利益	153	82	-71	-46.4%
営業利益ROIC	17%	10%	-7%	-

< 営業利益増減内訳 > ※2023年度よりEBITDAから営業利益に変更 (億円)



## ■ 繊維・製品 (売上高前年同期並み・増益)

- 衣料繊維分野：北米・中国向けのテキスタイル・衣料品の販売が好調に推移し、国内向けも衣料品の販売好調が継続
- 産業資材分野：水処理フィルター向けポリエステル短繊維、人工皮革、インフラ補強材の販売が好調に推移

## ■ ヘルスケア (減収・減益)

- 前年度(2022年6月)に「フェブリク<sup>\*2</sup>」の後発品が参入し販売量減少
- 薬価改定影響
- 「ソマチュリン<sup>\*3</sup>」や「ゼオマイン<sup>\*4</sup>」の販売量が順調に拡大
- CPAPは検査数が回復基調となり、レンタル台数の増加が継続
- HOTはレンタル台数は前年同期並みに高い水準を維持
- 2023年1月に上市した骨粗鬆症治療剤「オスタバロ」の採用活動推進
- 2023年7月 携帯型酸素濃縮装置新機種「ハイサンソポータブルαIII」上市

\*1 2023年度より新事業組織について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

\*2 痛風・高尿酸血症治療剤

\*3 先端巨大症・下垂体性巨人症/甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍/膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤

ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma (仏) の登録商標です

\*4 上肢・下肢痙縮治療剤。ゼオマイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA (独) の登録商標です

## ◆ ITセグメント [前年同期対比]

(億円)

	22年度 上期	23年度 上期	差異	増減率
売上高	273	342	+70	+25.6%
EBITDA	38	46	+7	+18.4%
減価償却費	4	5	+1	+25.1%
営業利益	35	41	+6	+17.7%
営業利益ROIC	44%	56%	+12%	-

## ■ IT (増収・増益)

- ネットビジネス分野では、電子コミックサービスにおいて広告宣伝活動が奏功し販売は好調に推移
- ITサービス分野では、企業向けを中心に概ね堅調に推移

## ◆ その他セグメント [前年同期対比]

(億円)

	22年度 上期 <sup>*1</sup>	23年度 上期	差異	増減率
売上高	242	275	+33	+13.8%
EBITDA	14	21	+6	+44.9%
減価償却費	21	26	+5	+22.7%
営業利益	-7	-5	+2	-

## ■ その他 (増収・増益) &lt; 電池部材、埋込医療機器、再生医療等 &gt;

- 電池部材分野では、リチウムイオンバッテリー用セパレータ及び高機能メンブレンが好調な販売を継続
- 埋込医療機器分野において、COVID-19の5類感染症移行後、手術件数が回復傾向であり、販売量は堅調に推移。また、2023年7月に、心・血管修復パッチ「シンフォリウム」が製造販売承認を取得
- 再生医療分野において、J-TEC<sup>\*2</sup>は概ね堅調に推移。CDMO<sup>\*3</sup>事業の立ち上げは順調

\*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

\*2 (株) ジャパン・ティッシュエンジニアリング

\*3 (株) Contract Development and Manufacturing Organization 製品の開発・製造を受託する機関

## ◆ 営業外損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	22年度 上期	23年度 上期	差異
受取利息	5	12	+7
受取配当金	8	6	-1
持分法による投資利益	26	3	-22
デリバティブ評価益	114	72	-42
その他	10	10	-0
営業外収益 計	162	103	-59
支払利息	27	49	+22
為替差損	66	41	-25
デリバティブ評価損	5	6	+1
その他	6	6	+0
営業外費用 計	104	102	-2
営業外損益 計	58	1	-57

## ◆ 特別損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	22年度 上期	23年度 上期	差異
投資有価証券売却益	12	56	+43
受取保険金	-	16	+16
その他	0	1	+1
特別利益 計	13	74	+61
固定資産除売却損	7	4	-3
投資有価証券評価損	3	2	-1
事業構造改善費用	0	65 <sup>*1</sup>	+65
その他	5	16	+11
特別損失 計	15	87	+72
特別損益 計	-2	-13	-11

\*1 複合成形材料の中国事業撤退に伴う損失

## ◆ 財政状態 [前年度末対比]

				(億円)	
	23年 3月末	23年 9月末	差異	内 為替 換算影響	
総資産	12,424	13,207	+782	+479	
負債	7,913	8,484	+570	+231	
(内 有利子負債)	5,294	5,698	+404	+161	
純資産	4,511	4,723	+212	+248	
D/Eレシオ <sup>*1</sup>	1.25	1.28	+0.03	-	
D/Eレシオ (資本性調整後) <sup>*2</sup>	1.10	1.13	+0.04	-	

## ◇ 総資産 増減内訳

	(億円)		
	23年 3月末	23年 9月末	差異
現金及び預金	1,428	1,554	+127
売上債権 <sup>*3</sup>	1,865	1,980	+116
棚卸資産	1,967	2,277	+310
固定資産	5,084	5,223	+139
投資有価証券	821	875	+54
その他	1,259	1,296	+37
総資産 計	12,424	13,207	+782

## ◆ キャッシュ・フローの状況 [前年同期対比]

	(億円)		
	22年度 上期	23年度 上期	差異
営業活動	321	236	-85
投資活動	-298	-276	+22
フリー・キャッシュ・フロー	23	-40	-63
財務活動他	223	165	-58
現金及び現金同等物増減	246	125	-121

## ◇ BS換算レート

	23年	23年
	3月末	9月末
円/米ドル	134	150
円/ユーロ	146	158

\*1 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

\*2 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

\*3 契約資産含む

## 2. 2023年度業績見通し

## ◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比、前回見通し\*1対比]

## 【営業利益】

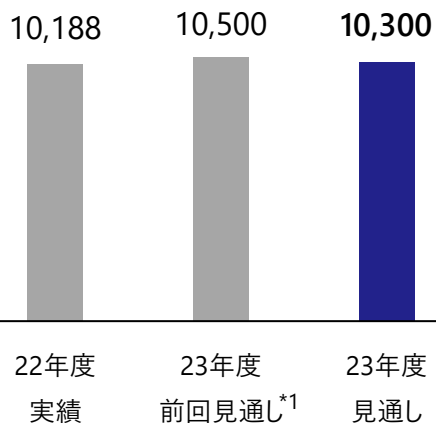
<前年度対比> マテリアルにおける生産性改善、追加的な販売価格改定、増産/増販などの収益性改善施策の発現や、前年度一時的に発生した生産トラブルの解消等が、ヘルスケアの後発品参入の影響をカバーし増益となる見通し

<前回見通し\*1対比> マテリアルにおいて、米国UAWのストライキや一部用途での需要軟化影響等により減益を見込むも、繊維・製品等の堅調な販売による増益見込み等により、前回見通しを据え置き

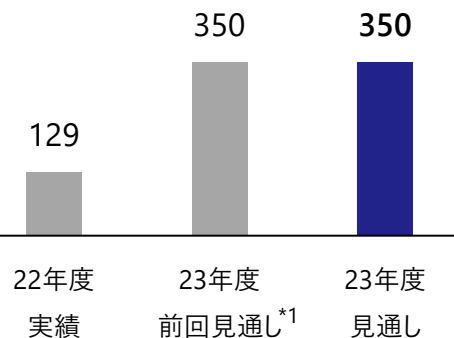
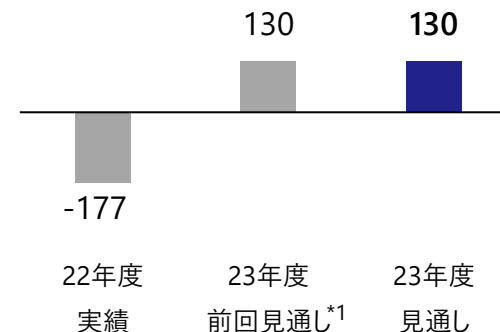
(単位：億円)

前年度対比  
前回見通し\*1対比

## 売上高

+1.1%  
-1.9%

## 営業利益

2.7倍  
変更なし親会社株主に帰属する  
当期純利益黒字化  
変更なし

## 前提条件

		22年度	23年度 前回見通し*1	23年度 見通し
通期平均為替レート	円/米ドル	135	136	143
	円/ユーロ	141	150	154
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		92	79	81
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)		116	57	46

2023年度配当金見通し (前回見通し\*1から変更なし)  
中間 15円/株 (決定)、期末15円/株、年間 30円/株



## ◆ 通期業績見通しサマリー [前年度対比、前回見通し\*1対比]

(億円)

	22年度 実績	23年度 見通し	差異	増減率	23年度 前回見通し*1	前回見通し との差異	増減率
売上高	10,188	10,300	+112	+1.1%	10,500	-200	-1.9%
営業利益	129	350	+221	+172.1%	350	0	0.0%
経常利益	91	310	+219	+240.7%	310	0	0.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	-177	130	+307	-	130	0	0.0%
ROE *2	-4.1%	3%	+7%		3%	0%	
営業利益ROIC *3	1.6%	4%	+3%		4%	0%	
EBITDA *4	878	1,130	+252		1,130	0	
フリー・キャッシュ・フロー	27	0	-27		0	0	
設備投資 *5	625	850	+225		850	0	
減価償却費 *6	749	780	+31		780	0	
研究開発費	319	330	+11		330	0	
D/Eレシオ *7	1.25	1.2	-0.0		1.2	0.0	
D/Eレシオ (資本性調整後) *8	1.10	1.1	-0.0		1.1	0.0	

\*1 2023年8月7日公表 \*2 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*3 「営業利益÷期首・期末平均投下資本\*」にて算出 (\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*4 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出 \*5 設備投資には無形固定資産の取得を含む (M&Aを含まず)

\*6 のれん償却含む \*7 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

\*8 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)













## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比、前回見通し\*1対比]

(億円)

	22年度 実績 <sup>*2</sup>	23年度 見通し	差異	増減率	23年度 前回見通し <sup>*1</sup>	前回見通し との差異
売上高						
マテリアル	4,387	4,450	+63	+1.4%	4,700	-250
繊維・製品	3,221	3,200	-21	-0.6%	3,150	+50
ヘルスケア	1,506	1,400	-106	-7.1%	1,400	0
IT	580	700	+120	+20.6%	650	+50
その他	494	550	+56	+11.4%	600	-50
合計	10,188	10,300	+112	+1.1%	10,500	-200

(億円)

	22年度 実績 <sup>*2</sup>	23年度 見通し	差異	増減率	23年度 前回見通し <sup>*1</sup>	前回見通し との差異
営業利益						
マテリアル	-213	70	+283	-	110	-40
繊維・製品	97	120	+23	+24.0%	100	+20
ヘルスケア	252	165	-87	-34.4%	165	0
IT	81	95	+14	+17.4%	90	+5
その他	-15	-30	-15	-	-35	+5
消去又は全社	-73	-70	+3	-	-80	+10
合計	129	350	+221	+172.1%	350	0

セグメント	営業利益の方向・要因			
	前年度対比		前回見通し*1対比	
全体		・マテリアルの回復が大きく寄与		・マテリアルの下方修正を堅調な繊維・製品等でカバーし、前回見通しから変更なし
-マテリアル		・収益性改善施策の効果発現 ・火災、設備故障などの一時要因からの回復		・米国UAWのストライキ影響や一部用途での需要減や在庫調整等の影響を受け販売量減
-繊維・製品		・衣料繊維、産業資材とも国内外で堅調な需要が継続		・国内外での堅調な需要により販売好調
-ヘルスケア		・医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減影響		・前回見通しから変更なし
-IT		・堅調なネットビジネスにより増益を見込む		・堅調なネットビジネスにより増益を見込む
-その他		・CDMO事業立ち上げに伴う先行費用発生		・コストダウン等

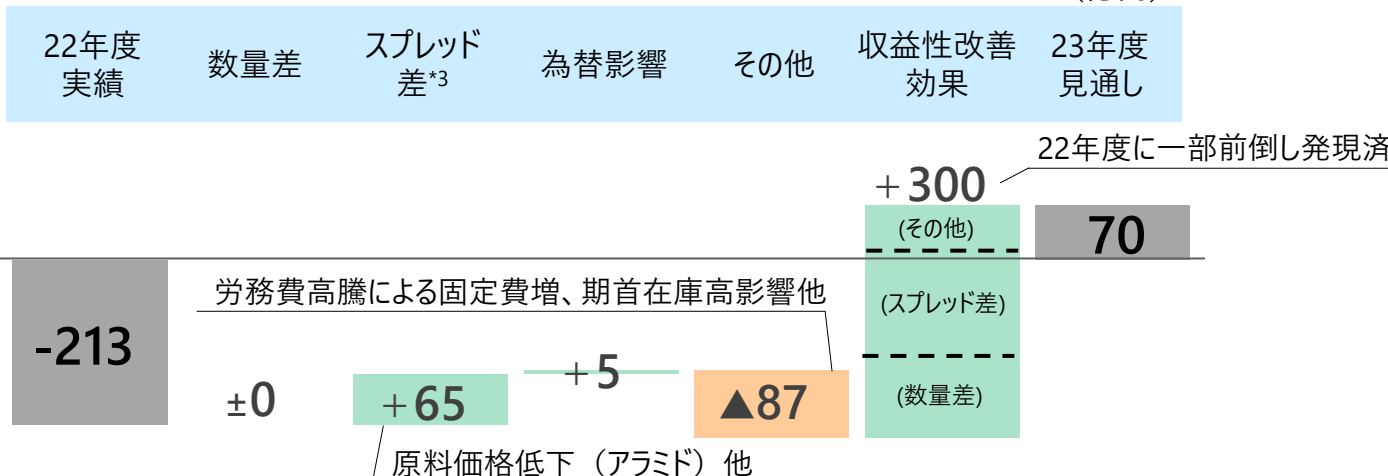
\*1 2023年8月7日公表

\*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

◆ マテリアルセグメント [前年度対比、前回見通し\*1対比]

< 営業利益増減内訳 > ※2023年度よりEBITDAから営業利益に変更 (億円)

	22年度				差異	(億円)	
	実績*2	23年度見通し 上期	23年度見通し 下期	計		23年度 前回見通し*1	前回見通し との差異
売上高							
高機能材料	2,748	1,261	1,439	2,700	-48	2,900	-200
複合成形材料	1,638	894	856	1,750	+112	1,800	-50
計	4,387	2,155	2,295	4,450	+63	4,700	-250
EBITDA	147	138	302	440	+293	480	-40
減価償却費	360	191	179	370	+10	370	0
営業利益	-213	-53	123	70	+283	110	-40
営業利益ROIC	-6%	-3%	6%	2%	+8%	3%	-1%



サブセグメント	営業利益の方向・要因	
	前年度対比	前回見通し*1対比
アラミド	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産制約解消や増設効果の発現による増産・増販</li> <li>原料工場の火災等による影響解消</li> <li>原燃料価格の低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収益性改善策は概ね予定通り進捗 (特殊補修部品の納入に時間を要していることで生産安定化に影響もガス価格下落に対応し計画より低い水準で先物予約実施)</li> </ul>
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国を中心に低調な需要が継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国を中心に需要の回復が遅延し、販売量減</li> </ul>
炭素繊維	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空機需要の回復に伴う販売構成改善</li> <li>北米新工場での生産性改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション用途等での在庫調整が継続し、販売量減</li> </ul>
複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>価格再交渉、コスト削減施策等による収益性改善</li> <li>設備故障による一時的な生産性悪化に伴う追加費用の解消</li> <li>労働力不足影響の低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収益性改善策は概ね予定通り進捗</li> <li>一部工場での計画外のコスト増</li> <li>UAWのストライキ影響による販売量減</li> <li>欧州での新プログラム販売増</li> </ul>

\*1 2023年8月7日公表 \*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示  
\*3 売値・構成差 + 原燃料単価差

◆ 繊維・製品セグメント [前年度対比、前回見通し\*1対比]

	(億円)					(億円)	
	22年度実績	23年度見通し		差異	23年度前回見通し*1	前回見通しとの差異	
		上期	下期	計			
売上高	3,221	1,585	1,615	3,200	-21	3,150	+50
EBITDA	166	108	82	190	+24	170	+20
減価償却費	69	37	33	70	+1	70	0
営業利益	97	70	50	120	+23	100	+20
営業利益ROIC	7%	10%	7%	8%	+1%	7%	+1%

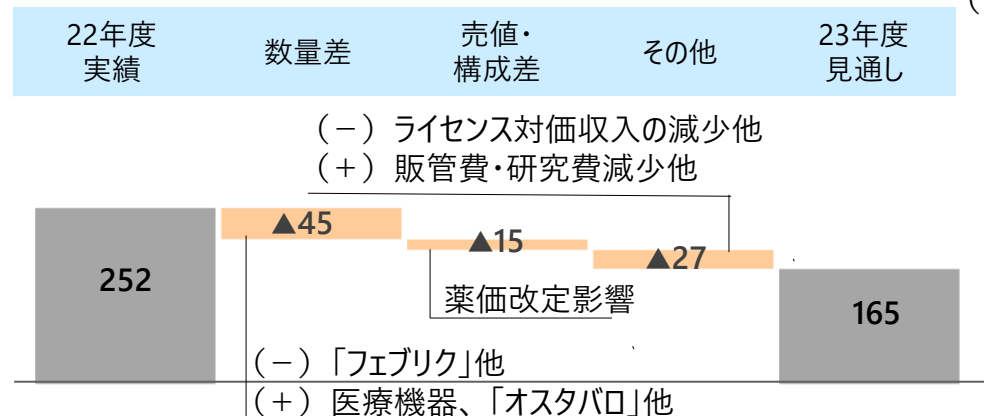
営業利益の方向・要因		
前年度対比	前回見通し*1対比	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(+) 衣料繊維：国内外で堅調な需要が継続</li> <li>(+) 産業資材：自動車関連の市況回復、水処理フィルター向けポリエステル短繊維販売堅調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣料繊維、産業資材とも国内外で堅調な需要が継続</li> </ul>	

◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比、前回見通し\*1対比]

	(億円)					(億円)	
	22年度実績 <sup>2</sup>	23年度見通し		差異	23年度前回見通し*1	前回見通しとの差異	
		上期	下期	計			
売上高	1,506	707	693	1,400	-106	1,400	0
EBITDA	510	210	215	425	-85	425	0
減価償却費	259	128	132	260	+1	260	0
営業利益	252	82	83	165	-87	165	0
営業利益ROIC	14%	10%	10%	10%	-4%	10%	0%

営業利益の方向・要因		
前年度対比	前回見通し*1対比	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(-) 医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減</li> <li>(-) 薬価改定影響</li> <li>(-) ライセンス対価収入の減少</li> <li>(+) 医薬品「オスタバロ」の増販</li> <li>(+) 医療機器の販売量・レンタル台数増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回見通しから変更なし</li> </ul>	

< 営業利益増減内訳 > ※2023年度よりEBITDAから営業利益に変更 (億円)



\*1 2023年8月7日公表

\*2 2023年度より新事業組織について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

## ◆ ITセグメント [前年度対比、前回見通し\*1対比]

	23年度見通し				差異	(億円)	
	22年度実績	上期	下期	計		23年度前回見通し*1	前回見通しとの差異
売上高	580	342	358	700	+120	650	+50
EBITDA	88	46	59	105	+17	100	+5
減価償却費	7	5	5	10	+3	10	0
営業利益	81	41	54	95	+14	90	+5
営業利益ROIC	53%	56%	74%	70%	+17%	66%	+4%

営業利益の方向・要因			
前年度対比		前回見通し*1対比	
→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(+ )ネットビジネス：電子コミックサービスの伸長</li> <li>・(+ )ITサービス：病院向け、企業向けともに堅調に推移</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堅調なネットビジネスにより増益を見込む</li> </ul>

## ◆ その他セグメント [前年度対比、前回見通し\*1対比]

	23年度見通し				差異	(億円)	
	22年度実績 <sup>*2</sup>	上期	下期	計		23年度前回見通し*1	前回見通しとの差異
売上高	494	275	275	550	+56	600	-50
EBITDA	30	21	9	30	-0	25	+5
減価償却費	46	26	34	60	+14	60	0
営業利益	-15	-5	-25	-30	-15	-35	+5

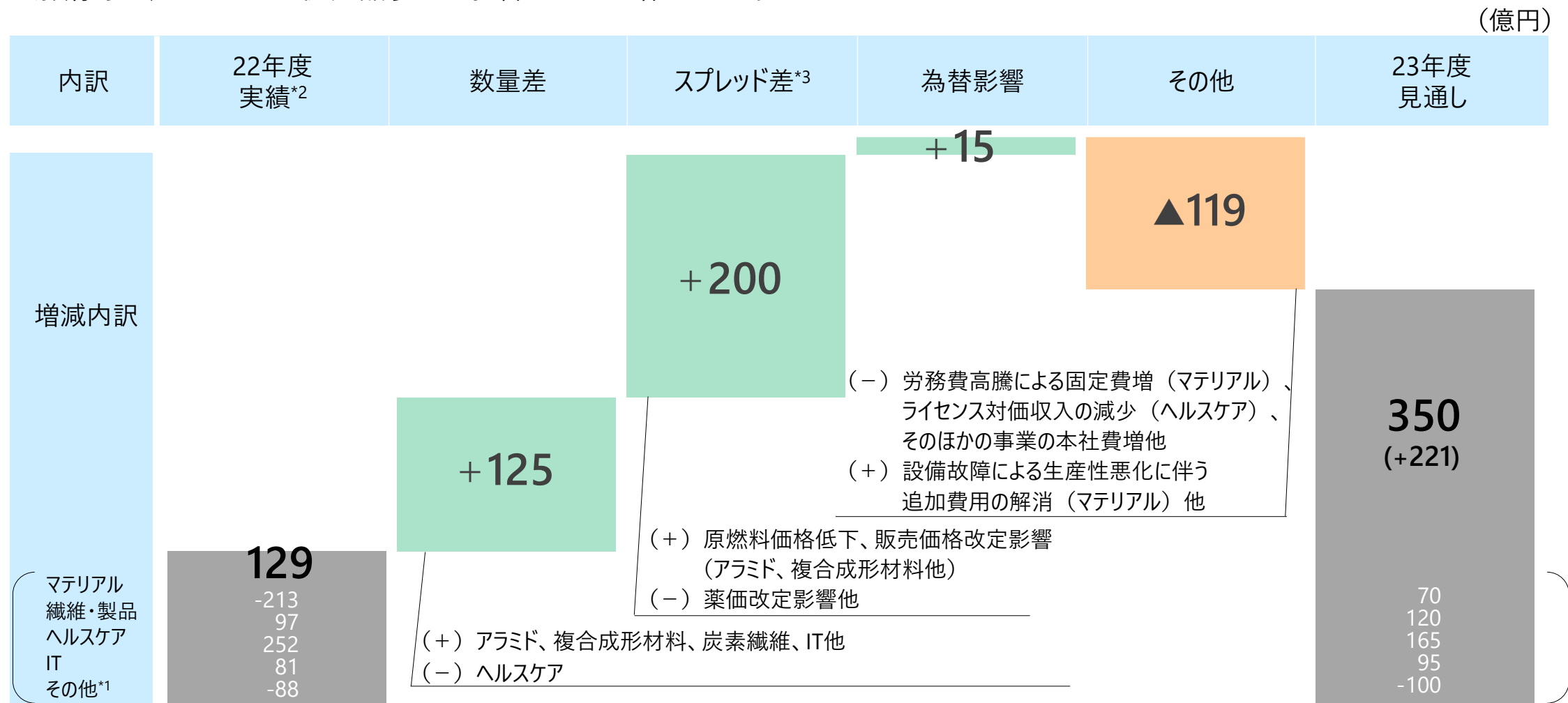
営業利益の方向・要因			
前年度対比		前回見通し*1対比	
→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(+ )再生医療・埋込医療機器：J-TECにおける販売増、埋込医療機器事業の販売好調</li> <li>・(+ )電池部材・メンブレン：セパレータは堅調</li> <li>・(- )再生医療・埋込医療機器：CDMO事業立ち上げに伴う先行費用発生</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電池部材・メンブレン：コストダウン等</li> </ul>

\*1 2023年8月7日公表

\*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

# 2023年度業績見通し 営業利益増減要因（前年度対比） \*2023年度よりEBITDAから営業利益に変更

- マテリアルにおける生産性改善、追加的な販売価格改定、増産/増販などの収益性改善施策の発現や、前年度一時的に発生した生産トラブルの解消等が、ヘルスケアの後発品参入の影響をカバーし増益となる見通し



\*1 その他は「その他」及び「消去又は全社」の合計としている

\*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

\*3 売値・構成差 + 原燃料単価差

### 3. 収益性改善に向けた改革の進捗状況

◆ 帝人グループ 収益性改善に向けた改革（2月公表）の進捗状況

**収益性改善策** - **課題事業の収益性改善と役員・スタッフの経営体制変革**を中心に、全社で構造改革を断行する  
 - これらの成果として、2023年度までに**300億円以上の収益改善**を目指す

- 複合成形材料：①一時要因からの復旧、②収益性改善策 [約130項目の改善策、モニタリング体制強化推進]、③選択と集中（欧・中・日）

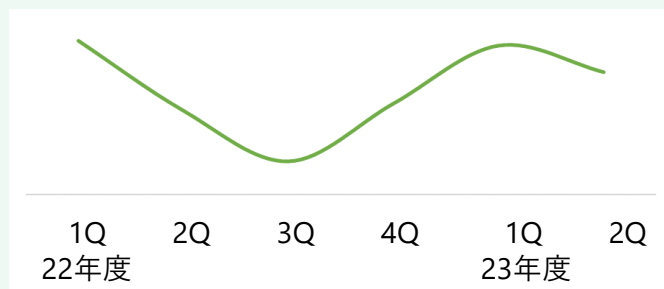
① 一時要因からの復旧：設備故障からは復旧するも安定稼働化遅延

② 収益性改善策：概ね計画通り進捗

北米での収益性改善策		改善アクション概要	改善額 (億円)	改善額に対する達成状況 <sup>*1</sup>	
				2023年度上期実績	2023年度通期見通し
①一時要因からの復旧		● 設備故障からの復旧および安定稼働	60	●	●
②収益性改善策	販売	● 低採算プログラム撤退 ● 原材料費以外の増分コストの価格転嫁再交渉	50	●	●
	購買	● サプライヤー交渉/変更、提案依頼・入札プロセス見直し ● 購買集中化	15	●	●
	生産	● ベストプラクティスの横展開、在庫・物流最適化 ● キャパシティ有効活用を目的とした拠点統合、部分撤退	65	●	●
2023年度収益改善額計			130		

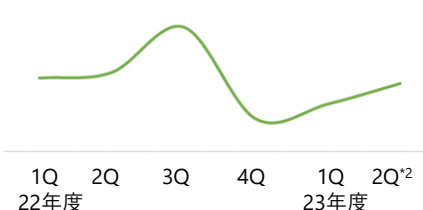
\*1 達成状況 ●:達成 ●:遅れ

● 営業利益推移

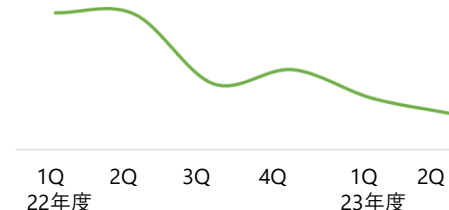


● モニタリング項目（例）推移

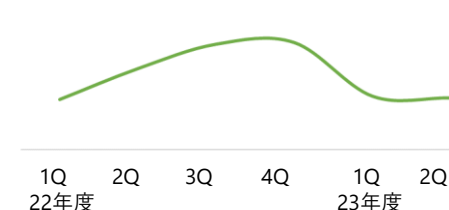
労務費比率（労務費/売上高）



離職率（離職者数/従業員数）



スクラップ率（スクラップ額/売上高）

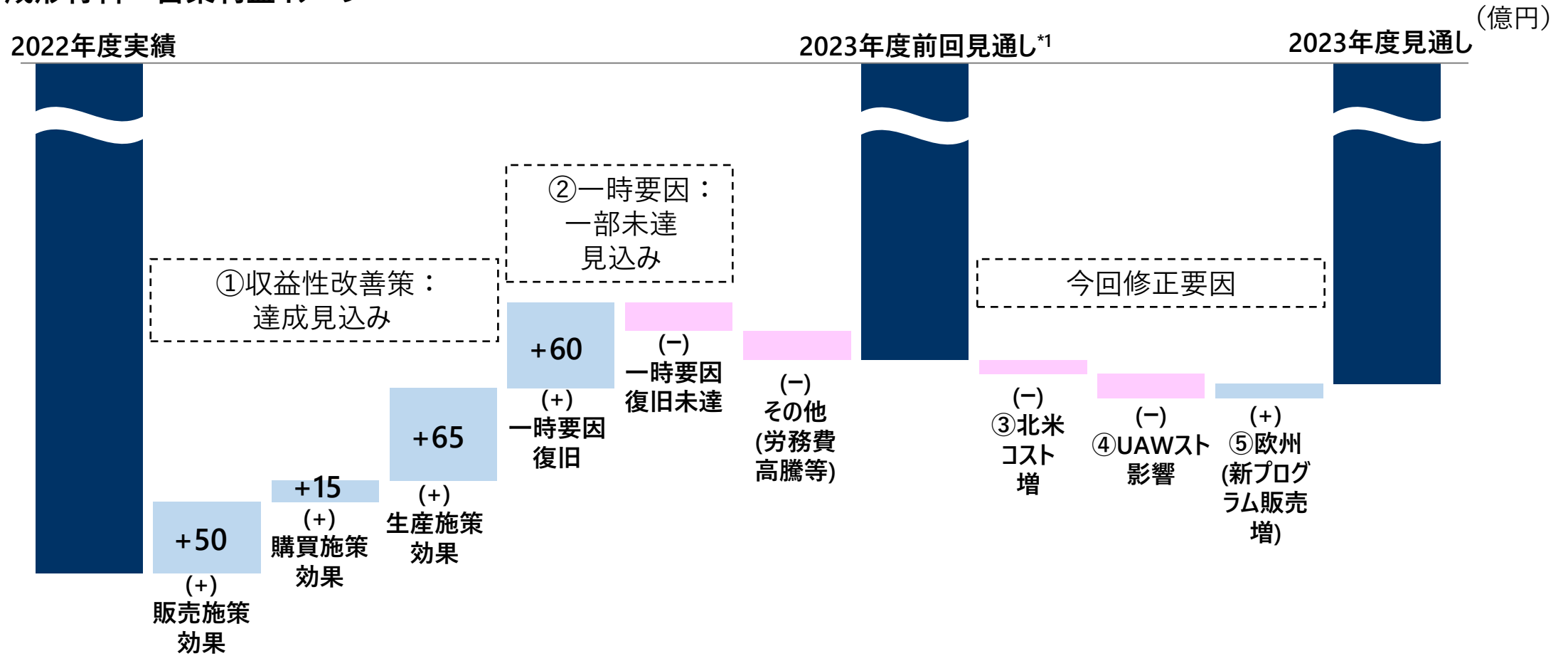


\*2 一部ストライキ影響による悪化含む

③ 選択と集中：中国事業からの撤収に加え、国内子会社<sup>\*3</sup>の譲渡を決定 \*3 株式会社ジーエイチクラフト



- 複合成形材料：営業利益イメージ



- ① 130項目の収益性改善策（効果額:130億円）は概ね達成見込み
- ② 一時要因からの復旧（効果額:60億円）は一部未達として前回見通しに織り込み済（北米13工場中いくつかの拠点）
- ③ 昨年度発生した品質問題に対する補償費用や、工程安定化のための外部エンジニアリング委託費用による計画外のコスト増
- ④ UAWのストライキ影響による販売量減（10月末まで継続前提）
- ⑤ 欧州拠点での新プログラムの生産対応及び価格改定効果による販売増

◆ 帝人グループ 収益性改善に向けた改革（2月公表）の進捗状況

- アラミド：①一時要因からの復旧

②収益性改善策 [火災を契機とした現場力強化の取り組み、「安全」「品質」といった強みの再強化、天然ガス価格対応]

① 一時要因からの回復：原料工場の火災影響は2022年度中に前倒し回復

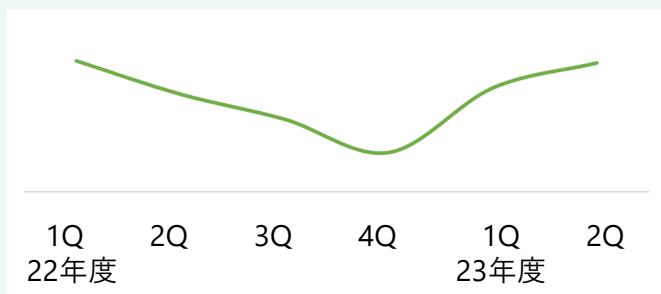
② 収益性改善策：特殊補修部品の納入に時間を要していることで生産安定化に影響も、

ガス価格下落に対応し計画より低い水準で先物予約実施し全体として概ね計画通り進捗

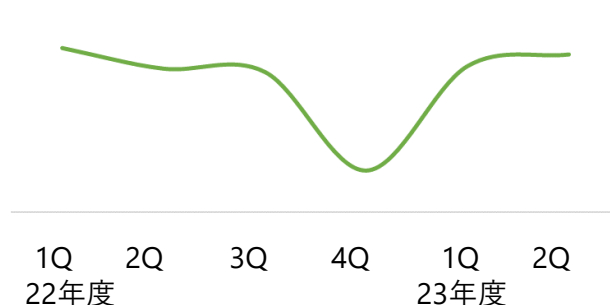
収益性改善策		改善アクション概要	改善額 (億円)	改善額に対する達成状況 <sup>*1</sup>	
				2023年度上期実績	2023年度通期見通し
①一時要因からの復旧		● 工場火災影響からの回復	70	●	●
②収益性改善策	天然ガス 価格高騰	● 欧州域外からの原料調達、生産拠点分散検討 ● 調達価格の安定化（先物予約の実行等）	70	● ●	
	生産性改善	● 既増設ラインの生産安定化 ● 紡糸工程を中心とした更なる自動化・デジタル化による生産革新		●	●
	増産/増販	● 設備能力増強の効果を早期に発現		●	

\*1 達成状況 ●●:想定以上に達成 ●:達成 ●:遅れ

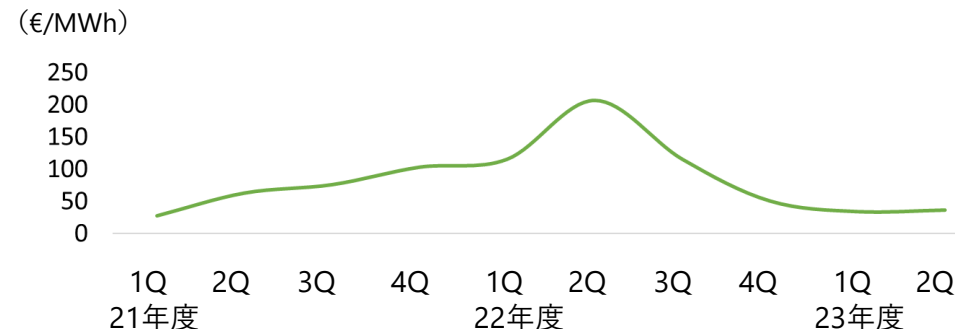
●営業利益推移



●生産量推移



●天然ガス価格<sup>\*2</sup>推移



\*2 オランダTTF月間平均

◆ 帝人グループ 収益性改善に向けた改革（2月公表）の進捗状況

- ヘルスケア：①事業基盤を活用可能な希少疾患・難病等の医薬品導入活動、②適正なリソース規模への構造改革、③既存製品極大化

① 医薬品導入活動：計画通り推進中

② 構造改革：創薬研究機能の水平分業化（6月）、営業部門の組織変更（10月）

■ 本社 営業統括部門の再編（11部→7部）

✓ 営業統括部門の本社組織の業務を棚卸し、機能軸で再編

✓ 支店・営業所への指示発信窓口の一本化による営業現場の負担軽減、及び本社スタッフ業務の効率化によるコスト削減を見込む

③ 既存製品極大化：計画通り推進中

■ CPAPと糖尿病治療剤との複合プロモーション推進

✓ CPAP関連医療機関での糖尿病治療剤採用拡充/糖尿病関連医療機関でのCPAP採用拡充の取り組み強化

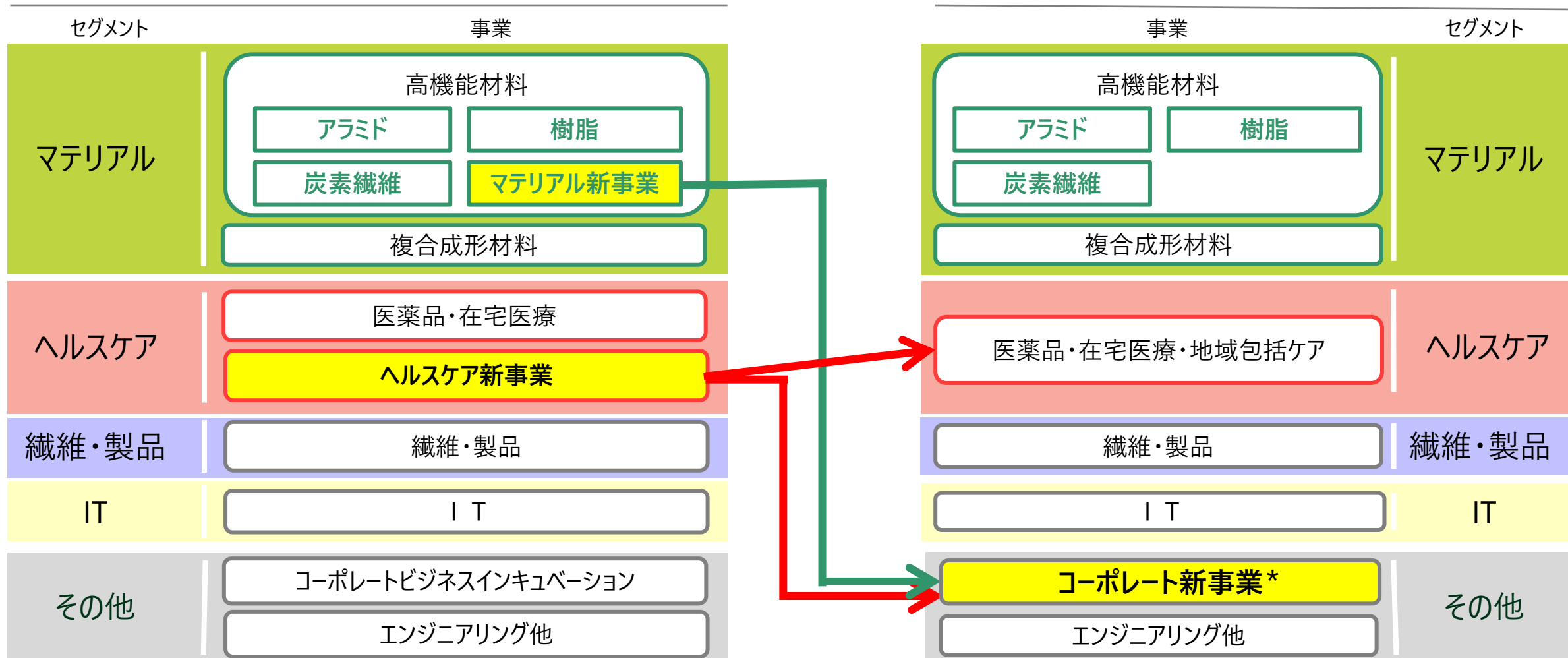
## 4. 参考資料

## 開示セグメントの変更

将来投資の領域となる新規事業、事業間の協創によるイノベーションの創出をコーポレートにて横断的に実施する体制へ  
 (マテリアル、ヘルスケア内の新事業をコーポレートインキュベーション部門と統合し、コーポレート新事業本部として再編)

～2022年度

2023年度～



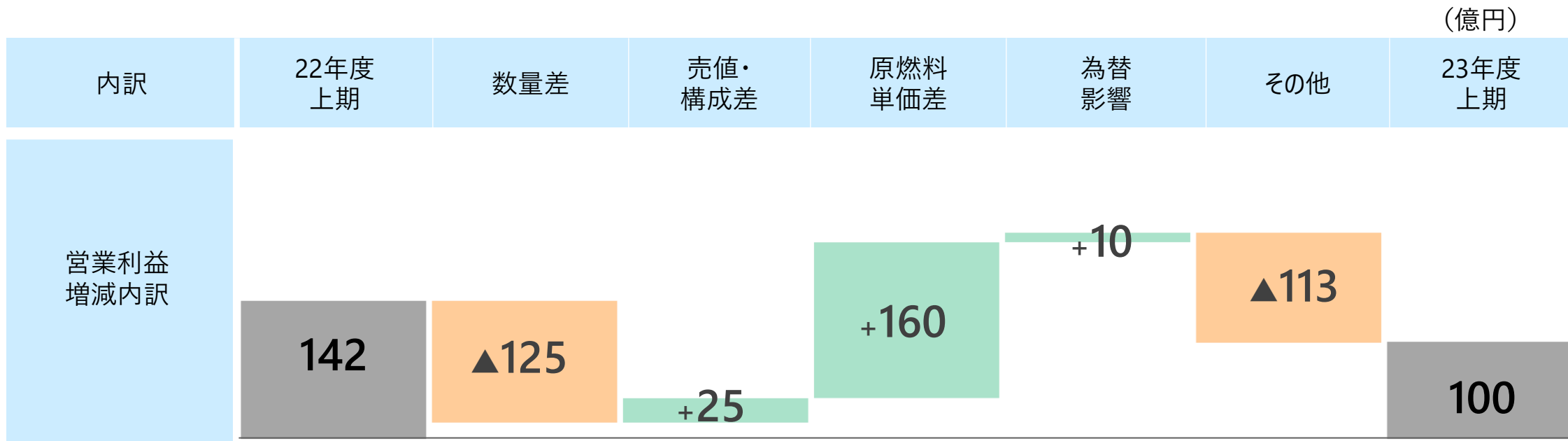
## 定常的な損益影響要因

セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"><li>アラミドの大型定修は3年に一度（次回は2024年度1Q予定を2025年度1Qに延期）</li><li>樹脂は毎年2Q、3Qに定修</li></ul>
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none"><li>衣料関係は3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン</li></ul>
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"><li>4Qに経費集中傾向</li></ul>
IT	<ul style="list-style-type: none"><li>2Q、4Qはシステム検収時期で納入増</li></ul>

## ◆ 営業利益増減（連結合計） [前年同期対比]

（億円）

	22年度 上期	23年度 上期	差異	増減率
売上高	5,105	5,065	-39	-0.8%
EBITDA	515	491	-24	-4.6%
減価償却費	372	391	+19	+5.1%
営業利益	142	100	-43	-30.1%
営業利益ROIC	3.4%	2.3%	-1.1%	-



## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同期対比、前四半期対比]

(億円)

	22年度*					23年度		差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	23/2Q -22/2Q	23/2Q -23/1Q
売上高									
高機能材料	665	747	672	665	2,748	608	653	-94	+45
複合成形材料	375	440	416	408	1,638	450	445	+5	-5
マテリアル 計	1,039	1,186	1,088	1,073	4,387	1,058	1,097	-89	+39
繊維・製品	737	849	822	814	3,221	756	830	-19	+74
ヘルスケア	431	348	361	366	1,506	358	349	+1	-9
IT	129	144	143	164	580	162	181	+37	+19
その他	102	139	132	120	494	115	160	+20	+44
<b>合計</b>	<b>2,438</b>	<b>2,666</b>	<b>2,546</b>	<b>2,537</b>	<b>10,188</b>	<b>2,448</b>	<b>2,617</b>	<b>-50</b>	<b>+168</b>
営業利益									
マテリアル	-8	-50	-80	-75	-213	-20	-33	+17	-13
繊維・製品	18	33	28	18	97	31	39	+6	+8
ヘルスケア	111	42	56	42	252	48	34	-7	-13
IT	15	20	19	27	81	18	22	+3	+4
その他	-12	5	1	-9	-15	-11	5	+0	+16
消去又は全社	-17	-15	-18	-22	-73	-24	-11	+4	+13
<b>合計</b>	<b>108</b>	<b>35</b>	<b>6</b>	<b>-20</b>	<b>129</b>	<b>42</b>	<b>57</b>	<b>+23</b>	<b>+15</b>

\*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。  
それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示



## ◆ 連結損益計算書 四半期推移

	(億円)					
	22年度				23年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	2,438	2,666	2,546	2,537	2,448	2,617
売上原価	1,749	2,040	1,968	1,949	1,798	1,950
売上総利益	689	626	578	588	651	667
販管費	581	592	572	607	609	609
営業利益	108	35	6	-20	42	57
営業外損益	35	22	-31	-64	8	-7
(内 持分法投資損益)	12	13	13	-50	-5	8
経常利益	143	57	-25	-84	50	50
特別損益	2	-4	-81	-23	23	-36
税金等調整前四半期純利益	145	53	-106	-106	73	15
法人税等	67	43	39	-6	48	32
非支配株主に帰属する 四半期純利益	5	7	0	6	6	7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73	3	-146	-106	19	-24

## ◆ 連結貸借対照表 四半期推移

(億円)

	22年度				23年度	
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末
<b>資産</b>						
流動資産	6,030	6,331	6,088	6,133	6,542	6,706
固定資産	6,623	6,720	6,302	6,291	6,486	6,500
<b>合計</b>	<b>12,653</b>	<b>13,051</b>	<b>12,390</b>	<b>12,424</b>	<b>13,028</b>	<b>13,207</b>
<b>負債・純資産</b>						
負債	7,854	8,222	7,863	7,913	8,315	8,484
(内 有利子負債)	5,178	5,447	5,236	5,294	5,764	5,698
純資産	4,799	4,829	4,527	4,511	4,713	4,723
<b>合計</b>	<b>12,653</b>	<b>13,051</b>	<b>12,390</b>	<b>12,424</b>	<b>13,028</b>	<b>13,207</b>

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比]

(億円)

	22年度実績*			23年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
高機能材料	1,411	1,337	2,748	1,261	1,439	2,700	-150	+102	-48
複合成形材料	814	824	1,638	894	856	1,750	+80	+32	+112
マテリアル 計	2,226	2,161	4,387	2,155	2,295	4,450	-70	+134	+63
繊維・製品	1,585	1,635	3,221	1,585	1,615	3,200	+0	-21	-21
ヘルスケア	779	727	1,506	707	693	1,400	-72	-34	-106
IT	273	308	580	342	358	700	+70	+50	+120
その他	242	252	494	275	275	550	+33	+23	+56
<b>合計</b>	<b>5,105</b>	<b>5,083</b>	<b>10,188</b>	<b>5,065</b>	<b>5,235</b>	<b>10,300</b>	<b>-39</b>	<b>+152</b>	<b>+112</b>
営業利益									
マテリアル	-58	-155	-213	-53	123	70	+4	+278	+283
繊維・製品	51	46	97	70	50	120	+19	+4	+23
ヘルスケア	153	99	252	82	83	165	-71	-15	-87
IT	35	46	81	41	54	95	+6	+8	+14
その他	-7	-8	-15	-5	-25	-30	+2	-16	-15
消去又は全社	-32	-41	-73	-35	-35	-70	-3	+6	+3
<b>合計</b>	<b>142</b>	<b>-14</b>	<b>129</b>	<b>100</b>	<b>250</b>	<b>350</b>	<b>-43</b>	<b>+264</b>	<b>+221</b>

\*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。  
それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

## ◆ セグメント別経営指標 [前年度対比、前回見通し\*1対比] ◆ 主要経営指標推移

	(億円)			(億円)	
	22年度 実績*2	23年度 見通し	差異	23年度 前回見通し*1	前回見通し との差異
営業利益ROIC*3					
マテリアル	-6%	2%	+8%	3%	-1%
繊維・製品	7%	8%	+1%	7%	+1%
ヘルスケア	14%	10%	-4%	10%	0%
IT	53%	70%	+17%	66%	+4%
合計	1.6%	4%	+3%	4%	0%

	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 見通し
ROE*4	11.2%	6.3%	-1.7%	5.5%	-4.1%	3%
営業利益ROIC*3	9.3%	8.7%	8.6%	5.5%	1.6%	4%
EBITDA*5 (億円)	1,076	1,072	1,068	1,130	878	1,130
1株当たり当期純利益 (円)	232.4	131.6	-34.7	120.6	-92.0	67.6
1株当たり配当金 (円)	70*	60	50	55	40	30
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	10,207	10,042	10,411	12,076	12,424	13,000
有利子負債 (億円)	3,692	3,819	3,800	4,852	5,294	5,550
D/Eレシオ*6	0.90	0.97	0.94	1.10	1.25	1.2
D/Eレシオ (資本性調整後)*7	-	-	-	0.97	1.10	1.1
自己資本比率	40.2%	39.3%	39.0%	36.4%	34.2%	35%

\*1 2023年8月7日公表

\*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

\*3 「営業利益÷期首・期末平均投下資本\*」にて算出 (\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*4 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*5 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*6 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

\*7 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

## ◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	22年度					23年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q
糖尿病治療剤四剤合計		69	62	67	50	248	63	58
ネシーナ®	2型糖尿病治療剤	34	31	33	25	122	31	28
イニシンク®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	20	18	20	15	74	19	17
リオベル®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	10	9	9	6	34	8	7
ザファテック®	2型糖尿病治療剤	5	5	4	3	17	5	6
フェブリク®	痛風・高尿酸血症治療剤	87	17	23	18	145	20	21
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	18	18	18	15	69	16	16
ソマチユリン®*2	先端巨大症・下垂体性巨人症、甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍、膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	14	14	15	14	57	15	15
ベニロン®	重症感染症治療剤	10	11	12	11	44	14	14
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	5	4	19	5	4
ゼオマイン®*3	上下肢痙縮治療剤	4	4	5	5	18	5	5
ムコソルバン®	去痰剤	4	4	5	4	18	4	5

\*1 ボナロン®/Bonalon® はNV Organon(蘭)の登録商標です \*2 ソマチユリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です

\*3 ゼオマイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH &amp; Co, KGaA (独)の登録商標です

## ◆ 非財務情報 ESG外部評価

GPIFの5つのESG指数全ての構成銘柄に採用されています

FTSE Blossom  
Japan Index2023 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)S&P/JPX  
カーボン  
エフィシエント  
指数FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index2023 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数

(注) MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れ及び帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCI及びMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

SRI（社会的責任投資）インデックスに組み入れられています

Member of  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
Powered by the S&P Global CSA

FTSE4Good



MSCI ESG格付評価において最上位の「AAA」を獲得しました

MSCI  
ESG RATINGSCCC B BB BBB A AA **AAA**

日経SDGs経営調査で非常に高い評価を得ています

NIKKEI  
**SDGs**  
経営調査 2022 ★★★★★

・ 4分野全てにおいて「S以上」の高評価

ESGへの取り組みが優れている企業として、2つの国内プログラムに選定されています

健康経営推進

スポーツエールカンパニー  
(ブロンズ認定\*)\* 認定回数5回～6回  
の企業の呼称

***TEIJIN***

*Human Chemistry, Human Solutions*